

低湿度型低温恒温恒湿槽

【キーワード】 低湿度、恒温恒湿、長期性能試験

【はじめに】

静電気は、気温が低い時期に空気が乾燥した状態で発生しやすくなります。温度 20℃以下、湿度 40%rh 以下がおおよその目安です。発生した静電気は機器を誤作動させたり、機器内部の電子回路を破損したりすることがあります。

このような静電気が発生しやすい雰囲気での試験に対応するため、低湿度での運転が可能な低温恒温恒湿槽を設置しました。低温で低湿度の制御が可能で、温度 5℃、湿度 5%rh という雰囲気を作ることができます。



写真 低湿度型低温恒温恒湿槽の外観

【低湿度型低温恒温恒湿槽について】

新しく導入した装置は、エスペック社製の低湿度型低温恒温恒湿槽 PDL-4J (写真) で、次のような性能を持っています。

◎ 温湿度範囲

① 湿度制御なしの場合：

-40℃ ~ +100℃

② 湿度制御ありの場合：

定値運転：図1のとおり

プログラム運転：図2のとおり

◎ 試験槽：1000W×1000D×800H mm

◎ 耐荷重：棚板を含めて 100kgf

(棚板 1 枚あたり 30kgf 以内)

◎ その他：左右の側面に1つずつケーブル孔、前面に操作孔あり

この装置により、水や静電気の影響を受けやすい機器の動作確認や材料の特性評価、長期性能試験等に御利用いただけます。

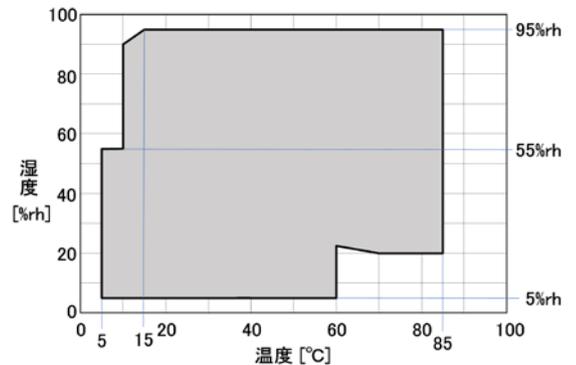


図1 定値運転の温湿度範囲

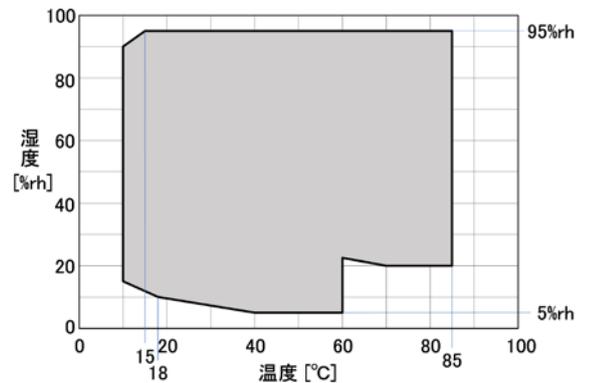


図2 プログラム運転の温湿度範囲